

# 日本地球掘削科学コンソーシアム 2025 年度定例総会 議事録

開催日時：2025 年 5 月 12 日(月)14:00～15:40

開催方法：オンライン開催 (Zoom)

出席者：正会員 27 名 (機関代表者出席 24 名・代理人出席 3 名)

賛助会員 2 名

## 議事次第

1. 会議成立の確認
2. ウェブ会議の進め方説明
3. 議長選任
4. 議事次第 (案) 確認・承認
5. 2024 年度活動報告
  - (1) 国際枠組みの変更に関する補足説明 (事務局長)
  - (2) 理事会活動報告 (会長) 資料 1
  - (3) IODP 部会活動報告 (IODP 部会長) 資料 2
  - (4) ICDP 部会活動報告 (ICDP 部会長) 資料 3
6. 2024 年度決算報告・監査報告 (財務担当理事・監事) 資料 4
7. 2025 年度執行体制報告 資料 5
8. 部会名の変更及びそれに伴う規約等の変更に係る審議 資料 6
9. 2025 年度活動方針案審議
  - (1) J-DESC 活動方針案 (会長) 資料 7
  - (2) IODP 部会活動方針案 (IODP 部会長) 資料 8
  - (3) ICDP 部会活動方針案 (ICDP 部会長) 資料 9
10. 2025 年度予算案審議 (財務担当理事) 資料 10
11. その他
  - (1) J-DESC 会員機関現状報告 資料 11
  - (2) その他
12. 議長解任
13. 会長挨拶

## 配付資料

- |        |                     |        |                             |
|--------|---------------------|--------|-----------------------------|
| 資料 1   | 理事会 2024 年度活動報告     | 資料 6-3 | J-DESC 規約 (変更案)             |
| 資料 2   | IODP 部会 2024 年度活動報告 | 資料 7   | J-DESC 2025 年度活動方針案         |
| 資料 3   | ICDP 部会 2024 年度活動報告 | 資料 8   | IODP 部会 2025 年度活動方針案        |
| 資料 4   | 2024 年度収支決算書・監査報告   | 資料 9   | ICDP 部会 2025 年度活動方針案        |
| 資料 5   | 2025 年度執行体制         | 資料 10  | 2025 年度予算案                  |
| 資料 6-1 | 部会名の変更について (案)      | 資料 11  | J-DESC 会員リスト (2025 年 5 月時点) |
| 資料 6-2 | IODP 部会規則 (変更案)     |        |                             |

## 議事概要

### 1. 会議成立の確認

J-DESC 斎藤総合事務局長より、J-DESC 規約第 11 条第 4 項に基づき、出席者数が総会成立定足数である正会員 49 の過半数である 25 を上回った為、総会が成立した旨報告があった。

（正会員機関代表者出席 24 名・代理人出席 3 名・議長への委任状 7 名：合計 34 名）

### 2. ウェブ会議の進め方説明

J-DESC 斎藤総合事務局長より、ウェブ会議の進め方について説明があった。

審議事項の承認では、異議のある場合のみ手を挙げる機能を使い、異議なしをもって承認とする。また、正会員が途中退出する場合は議決数に影響する為、チャットで事務局へ一報入れた上で退出するよう依頼があった。

### 3. 議長選任

議長への立候補及び推薦が無かったため、J-DESC 規約第 11 条第 5 項に基づき、事務局より石丸聡子氏（熊本大学）が推薦され、異議なしをもって承認された。

### 4. 議事次第（案）確認・承認

石丸議長より議事次第案の確認及び承認依頼があり、出席者により承認された。

### 5. 2024 年度活動報告

#### （1）国際枠組みの変更に関する補足説明（事務局長）

J-DESC 斎藤総合事務局長より国際枠組みの変更について投影資料に基づき説明があった。主な内容は以下のとおり。

- ・ 2024 年 9 月で IODP は終了し、2025 年からは新しい枠組みとして IODP<sup>3</sup>（アイオーディーピーキューブド）が始まる。IODP<sup>3</sup>は欧州 14 ヶ国（カナダを含む）から成る ECORD と日本が共同で主導するプログラム。正式名称は International Ocean Drilling Programme (IODP<sup>3</sup>)・国際海洋科学掘削計画。
- ・ プログラムの意思決定は Executive Board が行い、資金を管理するのは Management Agency、プロポーザルやデータ出版の管理はイギリスに設置されている IODP<sup>3</sup>の Science Office が行う。掘削提案科学評価は Science Evaluation Panel、安全や環境評価は Safety Environment Advisory Group で行う。
- ・ 掘削提案を採択にスケジューリングするのは MSP Facility Board となっている。

#### （2）理事会活動報告（会長）

益田 J-DESC 会長より資料 1 に基づき報告があった。

#### （3）IODP 部会活動報告（IODP 部会長）

石橋 IODP 部会長より資料 2 に基づき報告があった。

#### （4）ICDP 部会活動報告（ICDP 部会長）

藤原 ICDP 部会長より資料 3 に基づき報告があった。

【質問・コメント】

- ・ データベースの移行は、今後どのように保管・公表されるのか？  
→米国は少なくとも今後 5 年間に渡っては、既存のデータベースとリポジトリの管理を行う事が決まっている。一方で IODP<sup>3</sup>では Science Office がそれらの管理を行うことになっている。
  - ・ これまでの日本のデータは独自のデータベースを構築してしまい世界との統合がうまくいかずアメリカに任せていた部分があった。欧州はノウハウあると思うので、互換性があるような形で管理できるとありがたい。  
→先ほど回答した Science Office が管理するのはプロポーザルのデータベースのこと。今の質問で尋ねられている掘削で得られたサイエンスデータのデータベースに関しては、IODP<sup>3</sup>の 2 つのオペレータがデータベースを構築・連携する形になっていく。具体的な連携方法については今後検討される。
6. 2024 年度決算報告・監査報告（財務担当理事・監事）  
針金財務担当理事より資料 4 に基づき 2024 年度決算報告があった。また小村・池原監事より 2024 年度監査が終了した旨、報告があった。
7. 2025 年度執行体制報告  
J-DESC 斎藤総合事務局長より資料 5 に基づき、2025 年度執行体制について報告があった。任期 2 年目につき体制の変更はなし。
8. 部会名の変更及びそれに伴う規約等の変更に係る審議 資料 6  
石橋 IODP 部会長より資料 6 に基づき、部会名の変更及びそれに伴う規約等の変更について審議依頼があった。

【質問・コメント】

- ・ 新体制では複数のプログラムが動くという事で、SPARCS も IODP<sup>3</sup>の一環として行われると理解しているが、名称変更ではそれぞれ別のプログラムという扱いがなされているようだ。その辺りの整合性はあるのか？  
→SPARCS は IODP<sup>3</sup>の一環。IODP<sup>3</sup>は日本と ECORD の主導で進められるプログラムではあるが、米国、中国も独自のプログラムを立ち上げている。今後、J-DESC は IODP<sup>3</sup>及びこれらの他のプログラムにも何等かの貢献をしたい、という意図で IODP<sup>3</sup>部会ではなく海洋掘削部会とした。  
→という事は IODP<sup>3</sup>以外にも米国や中国のプログラムに J-DESC から人を派遣するようなことも検討しているという事か？  
→そのような事が発生した場合にどのように対応するかを含めて議論する部会とするという意図である。

【合意事項 20250512-01】2025 年度総会以降、IODP 部会の名称を海洋掘削部会に変更すること、またこれに伴い J-DESC 規約、IODP 部会規則も改正することが可決された。

※石丸議長より、これ以降の資料等で用いられる「IODP 部会」の表記は全て「海洋掘削部会」と読み替える旨、宣言があった。

#### 9. 2025 年度活動方針案審議

##### (1) J-DESC 活動方針案（会長）

益田 J-DESC 会長より資料 7 に基づき J-DESC 活動方針について説明があった。

##### (2) IODP 部会活動方針案（IODP 部会長）

石橋海洋掘削部会長より資料 8 に基づき海洋掘削部会活動方針について説明があった。

##### (3) ICDP 部会活動方針案（ICDP 部会長）

藤原 ICDP 部会長より資料 9 に基づき ICDP 部会活動方針について説明があった。

#### 【質問・コメント】

- ・ 中国では大型の掘削船の運航が始まっているようだ。J-DESC の今後の活動にも大きな影響を及ぼすと思うが、現時点で J-DESC として中国とどういう関係を保ち、連携していくかについて情報・方針があるか？  
→IODP<sup>3</sup>の枠組みの中に中国を統合する予定は無いが、連携をとり相互に相談をしながら研究計画を進めようという事でコミュニケーションは取り続けている。今後については、これから話し合うので、現段階で言えるような事はないが、研究者同士でうまくやっていける所はきちんと協力しあいながらやっていこうというスタンスではある。
- ・ データベースの管理は非常に大事だと思うが活動方針には一切載っていない。これに関する連携はわかりきっていることなので書かないという事なのか、役割分担があるのでここでは関知しないという事なのかお聞かせ願いたい。  
→様々な種類の掘削に関する、あるいは掘削以降に得られたデータも含め、データ共有に関しては米国なども非常に重要な問題と認識しており、それについては話し合いを進めてきている。ただし、J-DESC は国内組織だけで話し合っている訳ではなく IODP<sup>3</sup>の枠組みの中で話し合っている為、J-DESC の活動方針の中に表立って出てきていない。
- ・ 「論文として公表することを強く推奨する」という文言があったが、これは例えば今までの航海後支援経費の使用用途として、オープンアクセスジャーナルへの投稿等も認めていく事も視野にいれているのかお聞かせいただきたい。  
→念頭に無かったが、大変良い意見だと思った。今後はその点についても話し合いを進めていきたい。  
→将来計画と連動して進めていくという文言の中に、これらの連携が含まれているという事で理解した。今後ともよろしく願いたい。

**【合意事項 20250512-02】2025 年度 J-DESC 理事会、海洋掘削部会、ICDP 部会の活動方針案が承認された。**

#### 10. 2025 年度予算案審議（財務担当理事）

針金財務担当理事より資料 10 に基づき 2025 年度予算案について説明・審議依頼があつ

た。コアスクール開催費は一部の世話人からも物価上昇を加味するよう意見があった為、増額している。具体的な支出配分の方針に関しては今後理事会で審議の上、2025年度中に決定予定である。理事会、各部会は対面開催実績が少なかった為2回から1回に減としている。

**【合意事項 20250512-03】 2025 年度予算案が承認された。**

11. その他

(1) J-DESC 会員機関現状報告

J-DESC 斎藤総合事務局長より資料 11 に基づいて会員機関の現状報告があった。変更事項がある場合は事務局へ連絡の事。

(2) その他

**【質問・コメント】**

- ・ JTRACK アウトリーチ活動の報告の中に室戸高校での活動人数が入っていなかったが、地元の新聞・TV でも報道されたので人数 40 名という事を明記いただきたい。  
→ウェブ掲載資料では修正する。

12. 議長解任

全ての議題が終わり、石丸議長が解任された。

※J-DESC 斎藤総合事務局長より JpGU での地球掘削科学関連セッションとタウンホールミーティングについてお知らせ及び参加依頼があった。

13. 会長挨拶

益田 J-DESC 会長より別紙のとおり挨拶があった。

以上

## 会長挨拶

皆様、本日の J-DESC での円滑な議事進行にご協力いただき、また参考になるご意見をいただきありがとうございました。会議が無事にまた早い時間に終了したことで大変安堵しております。さて、基礎科学を取り巻く社会状況が大変厳しいものであることは、皆様が日常的に感じていらっしゃるのではないかと存じます。J-DESC の活動の柱となる海洋掘削と陸上掘削に関わる国際科学掘削共同研究はどちらも岐路に立たされております。国際海洋科学掘削計画は、今年に入って日本と ECORD が中心となったプログラム IODP<sup>3</sup>が始まりました。計画そのものはしばらく続くと期待してもいいと考えております。科学計画の立案、実行と運営に関わる負担が大きくなっております。また、国際陸上科学掘削計画は ICDP の契約の更新時期を迎えております。どちらの計画も昨今の財政縮小の影響を受け、潤沢とは言えない予算の下で一層の成果を上げなければなりません。さらに、大学・研究所とも人員削減とともに運営費交付金の縮小が年ごとに進んでおります。これらの人材財政事情は J-DESC の活動にも暗い影を投げかけ始めています。ここに集まってくださった方たちは、掘削科学の重要性を理解してくださり、日頃から J-DESC の活動を支えてくださっていらっしゃいます。そのような皆様方に今一度お願いがございます。J-DESC では今後も掘削科学が発展を続けられるよう皆様と共に努力を続ける所存です。この苦しいときを一緒に乗り越えられるように、一層の協力をいただきたく存じます。小さなことであってもできることがありましたら、ぜひコミュニティのためにお力をお貸しください。厳しい環境の中でも、私たちの活動が萎縮することがないように一緒に努力していただけると心強く思います。また J-DESC の様々な活動にご自身が参加され、学生たちに参加を促してこの組織を存分に利用してください。私たちの活動を通じて、より良い研究環境を共有し、掘削科学の面白さを次世代に継承していくために、また国際社会で活躍できる人材を育てるために協力し合えると大変嬉しく思います。ピンチはチャンスと言います。今のこの時期を私たちが良い方向へ迎えるチャンスだと考えて明るい未来を作るために J-DESC の活動を支援してくださいますようお願いいたします。早速ですが、先ほどご案内のありました JpGU で皆様ご自身の発表や活動だけでなく、仲間の活動、あるいは展示などにもご参加いただき、J-DESC 全体の活動を高めることにご協力いただければと思います。また、27 日に行われます。タウンホールミーティングには、ご自身の、周辺の若い方々も同行されて大勢で参加して交流を図っていただけるようにしていただければ幸いです。最後に皆様の一層のご活躍を記念して、ご挨拶の言葉を終わります。どうもありがとうございました。